第７回水と光のまちづくり推進会議

資料７

平成２８年９月１日

**水と光のまちづくり推進会議　平成27年度事業報告（案）**

**１．概　　要**

大阪府・大阪市・経済界が連携し、世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力を創造・発信するため、新たに「光のまちづくり推進委員会」及び「大阪・光の饗宴実行委員会」を本推進会議のもとに位置付け、「水と光の首都大阪」の実現を目指す体制を強化した。

また、平成２７年度は道頓堀開削４００周年、大阪城まちづくり４００年など様々な節目が重なる大阪にとってのシンボルイヤーであることから、シンボルイヤーを盛り上げる「水都大阪２０１５」の事業を実施した。

**２．内　　容**

（１）水と光のまちづくり推進に関する基本方針の改訂

　　平成２７年度から「光のまちづくり推進委員会」及び「大阪・光の饗宴実行委員会」が、水と光のまちづくり推進会議のもとで活動するため、「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」を（参考資料）の通り、改訂した。

（２）水都大阪パートナーズ事業支援業務

　①水都大阪パートナーズに対する基本方針の策定・提示

　　　一般社団法人水都大阪パートナーズに対し、「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」を提示した。

　②水都大阪パートナーズへの交付金助成

　　「水都大阪パートナーズ事業助成金交付要綱」に則り、大阪府・大阪市の27年度分担金計7300万円を、事業実施団体である一般社団法人水都大阪パートナーズに助成した。

　③水都大阪パートナーズへの事業評価の実施

「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」の実現にむけ、一般社団法人水都大阪パートナーズの事業目標、事業計画及び目標達成状況の評価を行うため、事業評価委員会（委員長：橋爪紳也・大阪府市都市魅力戦略推進会議会長）にて、事業評価を実施した。

（３）「光のまちづくり推進委員会」及び「大阪・光の饗宴実行委員会」に対する

基本方針の提示

光のまちづくり推進委員会及び大阪・光の饗宴実行委員会に対し、「水と光のまちづくり推進に関する基本方針」を提示した。

（４）水都大阪2015企画・運営業務

2015年シンボルイヤーを水辺から盛上げるため、昨年度実施した2014年プレ事業を継承した3つのコアプログラムを中心に、様々な民間プログラムと連携しながら、夏から秋にかけて「水都大阪2015」を開催した。また、同事業に併せて、水路大阪の魅力発信にも取り組んだ。（コアプログラム：延べ開催日数24日間、総来場者数約75万人）

（５）その他

　①水と光のまちづくり推進会議の開催

　　・第５回（7月7日）（6人）

　　　　「水都大阪パートナーズの取り組みについて」「水都大阪2015について」「大阪・光の饗宴2015開催概要について」「光のまちづくり推進委員会の取り組みについて」

　　・第６回（2月9日）（7人）

　　　　「会長の選任について」「水都大阪2015開催報告について」「水都大阪パートナーズの活動について」「大阪・光の饗宴の活動について」「光のまちづくり推進委員会の活動について」

②水都大阪パートナーズ事業評価委員会の開催

　　・第６回（5月20日、8人）

　　　　「委員長の選任について」「水都大阪パートナーズの平成26年度取組結果、平成27年度取組方針について」「平成26年度最終評価について」「平成26年度評価結果報告、ならびに平成27年度取組項目・達成目標について」

　　・第７回（10月26日、8人）

　　　　「水都大阪パートナーズの平成27年度取り組み状況について」

以　　上

平成２７年７月７日　改訂

参考資料

**水と光のまちづくり推進に関する基本方針**

**～「水と光の首都大阪」の実現をめざして～**

大阪では、この10年、行政・企業・市民等が連携し、水都大阪の再生に取り組んできた。大阪都心部の河川に遊歩道・船着場が整備され、それらの魅力空間を活用した個性的なクルーズ、河川法の規制緩和を活用した日本初の常設川床「北浜テラス」など、日本で最も先進的な水辺の利活用を行う都市となった。また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚のライトアップ、さらには冬の風物詩となった大阪・光の饗宴（ＯＳＡＫＡ光のルネサンス、御堂筋イルミネーション等）の開催など、日本でも有数の光景観を持つ都市ともなった。

我々は、こうした取り組みをさらなる展開へとつなげ、水と光の魅力で世界の都市間競争に打ち勝つ「水と光の首都大阪」の実現をめざす。そのために２０１５年シンボルイヤーをキックオフの年として、２０２０年に向けて以下の目的を掲げ、オール大阪で取り組む。

**◆世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現**

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部の「水の回廊」を中心に、他都市に類を見ないリバークルーズや水辺の賑いづくりを進める。

また、大阪の中心を南北に走る御堂筋や中之島を光で彩るとともに、府域の民間主体のプログラムと連携することにより、圧倒的な光景観を創出していく。

こうした取り組みを通じて、世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現する。

**◆「水と光」の魅力で、誰もがいつでも楽しめるテーマパークに**

「水と光」の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げ、国内外から観光客が訪れる、誰もがいつでも楽しめる水と光のテーマパークを実現する。

**◆水と光による新たなビジネスモデルや賑いの創出に向け、国内外のタレント（才**

**能）が集い、活躍する舞台に**

国内外から企業やクリエイティブな人材が集い、水と光による新たなビジネスモデルや賑いが継続的に創出され、民間投資を呼び込む仕組みをつくる。

**◆新たな公民連携モデルの構築**

民の先駆的な取組みを主導する「水都大阪パートナーズ」と、行政のワンストップ　化を行う「水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）」は、都市経営の視点を持って連携を図りながら、共通の目標に向かって、都市魅力づくり・まちづくりを推進する。

また、大阪・光の饗宴において、民間主体の関連ビジネスの創出・活性化を図るなど、公民の連携による都市経営プロジェクトの構築に取り組む。

以　　上